

横浜市立都田西小学校

1. 学校の状況と地域の実態

- ・授業研究を通しての教科の研究や学年研究での組織的な教材研究を行うことで学習指導の充実を図っている。
- ・比較的経験の浅い教員が多く、基礎的な指導技術を身に付ける必要がある。
- ・特別支援教育について、取り出し学習など個に応じたきめ細やかな対応を行っている。また、少人数指導を特に算数科で行い、一人ひとりに寄り添った指導を行っている。
- ・家庭での基本的な生活リズムが整っている児童が多い。
- ・低学年では地域ボランティアを積極的に活用するようにしている。また、保護者のボランティア活動も盛んである。

2. 3年間の方向(中期学校経営方針)

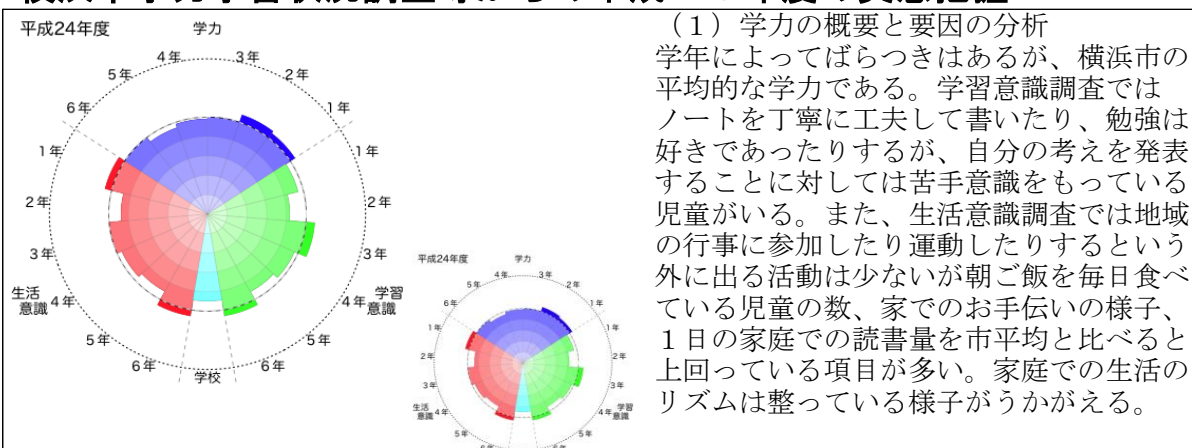
学力向上に関する指導の目標・方針(平成27年度末の姿)

○言語活動の充実を図ることにより、自分の考えを表現したり聞いたりする力が充実し、また基礎的・基本的な知識や技能、思考力・判断力・表現力が育成されています。

○特別支援教育、少人数指導等一人ひとりに寄り添った指導を引き続き行っています。

○重点研究、学年研究等組織的に研修・研究を進めて、学級で落ち着いた授業ができる指導技術を教員が身に付けています。

3. 横浜市学力学習状況調査等からの平成26年度の実態把握



(2) 教科学習の状況

国語科：読む力は付いているが、自分の考えを表現する「話す・聞く」や「書く」項目では若干低くなっている。

算数科：知識・理解は平均的な力が付いている。数学的な考え方も付いているが表現する力の育成を重点研究で取り組んでいるので継続して指導をしていきたい。

社会科：知識・理解は市平均に達している。思考・判断・表現は中学年が低く、高学年は平均的。

理科：中学年の技能は平均以上であるが、高学年での技能が下回る。その他は平均的。

(3) 経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)

学校全体として学年間の学力のばらつきが少なくなり、特に低学年での格段の向上がみられる。また、各領域を平均してみても国語よりも重点研究で取り上げている算数のほうが上回っている。学習意識調査では学習が楽しい、意欲的に課題に取り組むことが多いという児童が市平均程度おり、学習に向けての様々な取り組みが児童の学習へ向かう意欲を作っていると考えられる。

一方、自信をもって発表したり、意見を交換したりすることが苦手な児童がいることも確かである。基礎・基本の定着がなされておらず、そこから自信をもって活動に取り組むことができない場合もある。自己肯定感をもって生活している児童も多かったので、学習にもその気持ちが反映されるような授業改善を目指していきたい。

4. 平成26年度 目標と具体的方策

平成25年度 目標

(1) 学校としての共通取組

- 基礎・基本の定着
各学年で実態に応じた学習形態や指導方法で基礎・基本の力が身に付くような指導を行う。
- 言語活動の充実
授業の中で言語活動を意識的に取り入れ、自分の考えを進んで表現し合うことができる授業を行う。
- 特別支援教育の充実
困り感のある児童の理解を深めるために研修会を行うとともに、一人ひとりの児童に寄り添えるような授業形態をとれるようにする。
- 研修・研究の充実
研究部や学年等の組織を生かして研修、研究を行っていく。

(2) 学年・教科等としての取組

1 学年

- ・国語科・算数科等で説明をすることや紹介する文を書くことなど表現活動を大切にするとともに、対話する場面を意図的に設定する。
- ・聞くことを重点に置き、分からないことや知りたいことを尋ねたり、自分の気持ちを言葉で表したりしながら対話する。

2 学年

- ・事物の説明や経験の報告をしたり、文章に書いたりするなど表現活動を大切にす
- ・尋ねたり応答したり、考えをまとめたりするような話し合いの場面を学習の中に積極的に位置づける。

3 学年

- ・社会科や理科で見学・観察したことを記録したり説明するための表現活動を充実させたりするために、文章を分かりやすく書いたりグループ間での発表の機会を学習の中に積極的に取り入れる。
- ・国語の学習を生かして「お話会」の活動を朝の会等に位置づけ、相手を意識した話し方ができるようにする。

4 学年

- ・算数では少人数指導を行い、できるだけ個に応じた対応ができるようにする。
- ・1時間の授業の流れと学んだことが分かりやすい書き方を指導し、前時の振り返りを自分で行うようにする。
- ・話し合い活動において、時にはペアやグループで話し合ったりする活動を取り入れる。
- ・発言では根拠となる文章や理由を付け加えて自分の考えを述べるようにする。

5 学年

- ・算数では少人数指導を行い、一人ひとりに基礎基本の力を付けたり、個に応じた指導が行ったりするようにする。
- ・ノート指導では子供の考えを価値づけたり深めたりすることで、自己肯定感をもたせる。さらにその考えを進んで発表できるようにする。
- ・学習の中で自分たちの考えを話し合う場を確保し、友だちに共感したり、経験をもとにして考えたりしている発言を価値付けて、自分の考えを進んで表現できるようにする。

6 学年

- ・算数では、計算問題や復習プリントを繰り返し行ったり、個に応じた指導を行ったりし、基礎基本の力を身につけさせる。
- ・意見発表ではなく話し合い活動にするため、意見を全体に返し、学び合いの場を作っていく。
- ・既習事項を活用して考えさせる活動を大切にし、立式や答えの予想を立てさせる。
- ・グループ学習を必要に応じて取り入れ、児童が自信をもって発表できるようにする。

個別支援学級

- ・一人ひとりの実態に応じた内容の学習プリントを用意したり、繰り返しの学習をしたりして個別の指導を大切にす。
- ・個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、子供の実態に応じた適切なコミュニケーション手段を日常的に指導し活用できるようにする。
- ・子供の実態に応じた分かりやすい言語環境の整備を行うようにする。